

大豆粉餅

歌の會などあるに三方の臺色あくまで黒きに、ころくとする赤小豆餅をのせて出されたり、然れども歌は今時の人十倍す、

〔本朝食鑑一〕大豆○訓萬米中略

大豆粉集解今用炒大豆粉調白鹽少許抹餅而食之或抹飯而食者亦佳、

〔諱語浮世風呂三編下けり子イエモウ松のおもほん事もはづかしでござります此間子あまりいやしい題でござりますが、おかちんをあべ川にいたして去る所でいたゞきましたから、とりあへず一首致しました、

うまじものあべ川もちはあさもよしきな。粉まぶして晝食ふもよし、といたしましたヲボホヽヽヽ

胡麻餅

〔本朝食鑑一〕胡麻○中略

集解胡麻卽油麻也○中略抹餅而食此號胡麻餅、

〔ト養狂歌集下〕一ある人のかだへ行給ひてければ、ちそうにざまもちを出しければ、

くろごまのかけて出たるものなればくふ人ごとにあらむまといふ

〔雍州府志六土產〕茅栗○中略一種有大者風味形狀比丹波之產則爲劣不脫其毛毬謂伊賀栗倭俗毛

毬謂伊賀湯煮去外皮碎其實而篩之、繆餅而食之是謂栗粉餅斯製法西洞院餅店并本阿彌辻子所有爲勝矣延喜式載山城國貢平栗子此栗類乎、

〔槐記續編〕享保十六年十月十一日嵯峨渡御○近衛家嵯峨ニテ御菓子ニクリコ餅ヲ仰付ラル龜屋虎屋ヲ呼テ役人衆ヨリ明朝微明ノ御菓子也嵯峨マテ持參シテ苦カラヌヤウニ認メテ、今晚アグベシ少モ損ゼタヤウニ覺悟スベキ由仰付ラル兩家トモニ得御請申マジキ由ヲ申テ辭退ス、然ラバ栗ノ粉ハ別ニ重物ニ入ラレテ餅ハ餅ニテ別ニ持參アルベシゾノ餅ヲ今宵アグベシ